

「ちゃちゃこ」

●設立の経緯と概要

平成14年4月川越市立西図書館の建設に伴い、川越市ではじめての福祉喫茶「ちゃちゃこ」が開設されました。運営主体は地域ケア施設「オリオン」から平成19年には小規模の福祉施設ワークセンター「けやき」が運営するようになりました。

電気・ガス等光熱費は川越市が負担。食器や材料は運営団体が負担し、就労支援を行っています。利用者は知的障害者の3名と職員2名（調理師、社会福祉士）。

図書館の開館に合わせ、土・日・祝日も開店。店内には小さなテーブルが8卓（16席）あり、店の外にはガーデンテーブルが4卓（12席）あります。昼は日替わりメ

や、午後のニーズへの細かな対応が柔軟にできるなど、総合力があり、狭い喫茶内だけでは出来ないことも可能になっています。

●町の今後の課題

福祉喫茶「ハーモニー」は障がい者の就労の場として、障がい者の保護者と有償ボランティアのサポートを得て運営されてきました。しかし、就労支援の専門家（福祉支援員）も設置されず、就労支援の位置づけすら明確ではありませんでした。

社会福祉法人ワークセンター「けやき」は、福祉団体が「福祉」によりかからず、「福祉」でありながら社会参加のもと障がい者が事業を目指す考えが根本にあります。今年度策定予定の「障害者福祉計画」において障がい者の就労支援について町としても明確なビジョンと具体的な施策を打ち出すべきで

ニユー、パスタ、ドリンク等開店時間は10:30～16:10まで。

●運営の特徴（経営感覚でサテライト的に事業運営）

福祉喫茶「ちゃちゃこ」は、社会福祉法人「けやきの郷 ワークセンターけやき」が運営しています。ワークセンターけやきは、一人ひとりが誇りを持って働けるような就労支援を最大の目標としており、本体施設を拠点に地域にサテライト的に事業所を配置し利用者へ社会参加の場を提供しています。本体施設が、総合フードサービス食鮮工房グループと連携し、センター厨房を中心に食品関連の事業を多方面に行っていることが就労の機会を提供する結果につながっています。

障がい者の就労支援というと、施設の中で作業所を持つイメージはないかと思えます。

福祉喫茶「ハーモニー」の今後の運営にあたっては左記の「ちゃちゃこ」の取り組みが参考になるかと思えます。

- ① 障害者の自立、就労支援のためには就労支援員、社会福祉士等有資格者の支援員を設置。
- ② 行政が福祉施策の一環として一定の人員費、施設、高熱水費等、財政的な支援を行う。
- ③ 社会福祉協議会や福祉団体、ボランティアとの共同作業、連携も検討する。
- ④ 飲食等の提供にあたっては、町内に厨房を持つ事業所との連携、協力を図ることにより、経費の軽減とお客様のニーズに応えられるメニューの設定が可能となる。
- ⑤ 小さな拠点から町内の様々な職種への就労の場をサテライト的に広げるビジョンを持ち、社会参加

があります。街中へ出るサテライト方式が大切だと認識し、そのひとつと位置付けています。

「ワークセンターけやき」の集団給食サービスでは、約400食1日のお弁当を作り、そこから喫茶にも出すことができます。さらに製パン菓子製造業「けやきベーカリー」からは、パン類でモーニングの提供

の機会を広げる。

⑥ 広報・ホームページ・福祉まつり等ハーモニーのPRを積極的に行う。

⑦ 「ちゃちゃこ」は、人が多く訪れる1階図書館としての立地条件にも恵まれていることから、福祉喫茶を開くには厨房等の設置も含め立地も重要な要素だと考える。

なお、当日は町内の障害者福祉施設「かしの木ケアセンター」と、高齢者福祉施設「みずほ苑」の視察も合わせて行いました。

今後も、厚生文教常任委員会で、障がい者の自立、就労支援に向けて調査して参ります。



「ちゃちゃこ」の店内



「ちゃちゃこ」の厨房



人気の日替わりメニュー